

こまつ座

言わせて! 今日の芝居

◎五十字劇評 No.58

きらめく 星座

【二〇代】

▼役者さん全員から舞台を全力で楽しんでる事が伝わり、観客もその熱量に魅せられて予期せぬ笑いが起きたり、息を呑む音が聞こえてきたりしていました。私が好きだったのは、オデ

オン堂の看板の使い方です。場転の時に…、情景に合わせる…、看板の光が色々な感情を現わしているように見えました。ずつと共に歩んできた自分達の大切なモノ、場所、考え方などが、戦争という大きな変化の中でも輝き続けているというメッセージのように感じました。あの光も「きらめく星座」の一部なのかと思いました。(女性)

【六〇代】

▼何だろう、この残念さは。絶妙な軽快さで楽しんだ前半から一転、シリアスな後半は中だるみ。寝てしまった。戦争モノ流行りの昨今の舞台、この作品のテーマは最早キラめいてはいない。(男性)

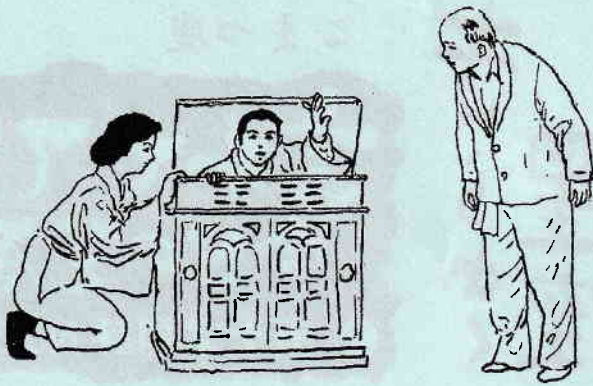
▼出演者の演技が皆上手く、舞台を安心して観ていられ

るし、物語の展開に集中することができた。特に、小笠原ふじ役を演じた松岡依都美の「あの暗い状況の中でも、周りを明るくする太陽のような演技」が素晴らしいかった。井上ひさしの作品は、いつも素晴らしい。今回の舞台も、太平洋戦争前の大変な状況の中で、翻弄されながらも一生懸命生きる庶民の姿が良く描かれていた。また、「人間という奇跡の存在」について静かに語るシーンがとても印象に残った。「奇跡の存在なのだから、一人一人が限られた命を大切に、自分のやりたいことを一生懸命やって生きる」という大きな普遍的なテーマも伝わってきた。この作品は、私は五年に一度出会えるかどうかというくらいの傑作だと思う。(男性)



▼コロナがあっても戦争でも、人には毎日の生活があり、続いていくという事が、悲しく、遅く、希望でもありませんね。(女性)

▼星座と命。生まれてきた理由。家族というもの。音楽を愛する人々を阻む戦争の現実。歌声と動作の明るさよ。(女性)



▼軍国主義の中、明るく生きるオデオン堂のひとつと。「人間は、奇跡なんだよ」のセリフが印象に残った。ラストは開戦前夜。ふじが唄う「青空」に救いがあった。

(男性)

【七〇代】

▼初見と同じ言葉に感動した。地球に生命が発生し人間が生まれた奇跡。昔から宮沢賢治の詩文が好きだった。井上ひさしさんもかな。

(女性)

▼太平洋戦争直前の舞台と聞いたなら、暗い・重いと思いがちですが「オデオン堂一家」の明るく楽しく観ている私も何かほっこりするお芝居でした。ピアノ演奏が入り歌も多くそちらに気が取られた気もしますが、俳優の皆さんの声が素晴らしいかったです。長男の正一が軍から脱走して憲兵の目をくぐり抜けて非国民と言われている実家の元へたびたびやって来るがそのたびに暖かく迎える素敵な一家でした。宇宙には何億個と星があり、地球もその一つで人間が誕生した奇跡、生

きている奇跡これらの言葉が心に響きました。一つだけ最初はよいとして最後にまた毒マスクは必要なの？

(女性)

▼傷痍軍人さんがどうなっていくのか、心配しながら観た。きらめく星に住む防毒マスクの地球人は、今日では、リアリティありすぎで、怖い…。

(女性)

▼嫌なムードがある今日この頃、観終わって平和の大切さ「井上ひさし」の思いを、みんなに少しでも伝えたい。

(女性)

▼歌に笑い三時間一〇分あつという間、最後に皆で歌うのかと思いきや無し。終演にチヨッピリ淋しさとまた会いたい。

▼長女が傷痍軍人と結婚して美談の家となったり、そのレコード店が閉鎖になつたり、暗い時代へと追い込

まれていく様に重い空気が伝わりました。戦争時の隣組というこわさにぞっとさせられるけど、今の時代でも有りそう。

編集スタッフから

七月例会『畏』は、チラシに「驚愕の結末」、「あなたは見破ることができるか」とあります。間違いなく面白い作品です。先日、制作の箱田さんの講演を聞く機会がありました。その時にこの作品のテーマとして、「人の命を軽んじる者は許さない」ということを挙げていました。さて、ご覧になったみなさんはどう感じましたか？ぜひその感想を劇評集に投稿してください。お待ちしております。